

公文類集第六十九編

昭和二十年

卷六十五

交通門
通信
郵便
電信
電話
運輸
航空
船舶

国立公文書館	
分類	
配架番号	2 A
	13
	2949



別紙外征部隊及居留民歸還輸送

陸軍大臣 五		海軍大臣 五		木東車本庫	
大藏大臣 五		司法大臣 五		農務大臣 五	
文部大臣 五		陸軍大臣 五		運輸通備大臣 五	
內務大臣 五		農務大臣 五		小島國務大臣 五	
外務大臣 五		海軍大臣 五		木東車本庫	

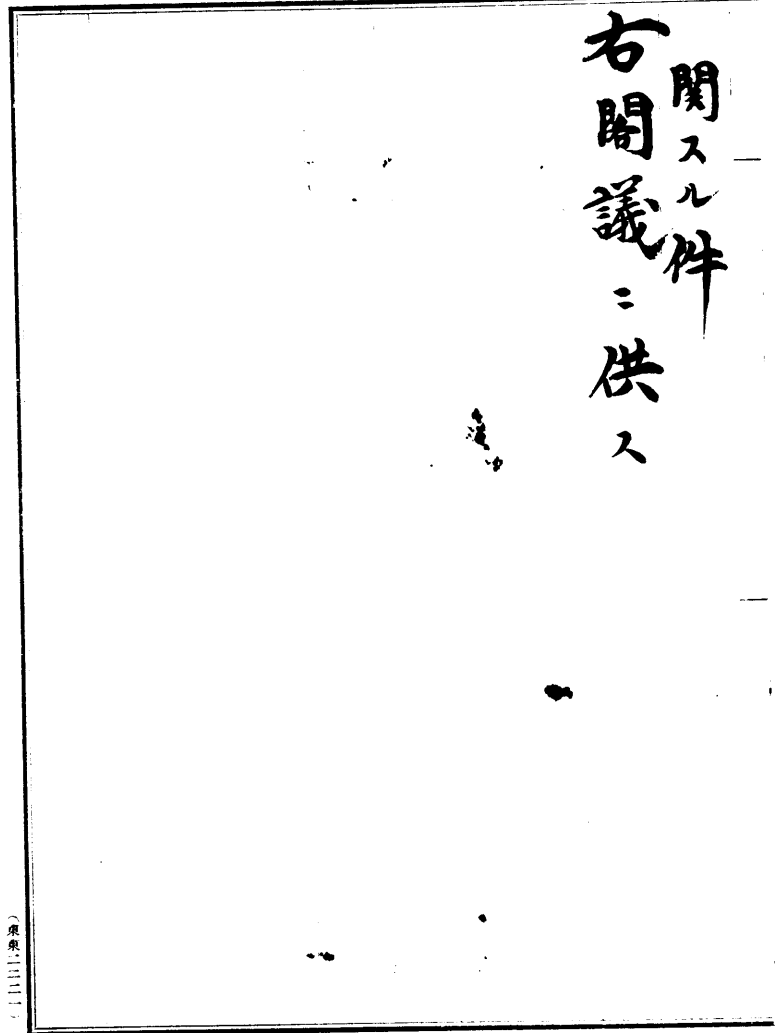
内閣總理大臣
五

内閣書記官長
五
内閣書記官

閣議第四四號
昭和三十年九月五日
昭和三十年九月五日
昭和三十年九月五日
昭和三十年九月五日

勢大個別ノ運用ハ之ヲ現地ニ委任シ狀況ニ依テハ戰後ニ即應
スル運用ニ道徳十カラシムル様態勢ヲ準備ス(陸海軍)
運輸省、軍需省、農商省(運輸省、陸軍省、海軍省、地方長官)
三、上陸作戦方式ニ依ル短切揚塔實施ニ周詳ナル措置
四、(1)揚塔物件ノ分散秘匿及其他、(2)輸送準備(港灣外水陸ノ連絡)
修理補給機關及能力ノ現地(港灣)獨立化
五、地方廢ノ積極的協力能勢、強化(内務省)
六、(1)労務及資材ノ供給(特ニ集結居住)爲
(2)労務住宅ノ供給(食料確保)
(3)船隻及勞務者ノ簡易化(入藏省)
(4)會社經理ノ簡易化(入藏省)

關スル件
右閣議ニ供ス



（原案二二二）

外征部隊及居留民歸還輸送ニ關スル件案

昭二〇
（案）

外征部隊及居留民ノ歸還輸送ハ左記ニ依リ措置スルモノトス

左記

- 一 外征部隊及居留民歸還輸送ノ爲現有稼動船腹ノ大部ヲ之ニ充當ス
居留民ノ輸送順序ハ各地ノ治安、氣候、自活其ノ他ノ諸條件ヲ勘
シ先ツ滿鮮及支那方面ヲ優先的ニ處理ス
- 二 現有船舶ノミヲ以テセハ輸送處理極メテ至難ナル實情ニ盡ク極力聯
合國ヨリ船舶ヲ借用スル如ク措置ス
- 三 第一項船舶ノ運用ハ現在諸機件ヲ極力活用スル如ク措置スルモ成ル
可ク速カニ政府ニ於テ一元的運用可能ナル如キ組織

昭二〇
（案）

外征軍政居留民歸還輸送處理要領（案） 昭二〇、二

第一 方針

- 一 歸國輸送ノ重點ヲ先ツ大陸特ニ支那及滿洲ニ指向ス
 - 二 此ノ間滿他ノ方面ニハ重患者選送ノ爲必要最少限度ノ船腹ヲ充當スルト共ニ該船腹ノ往航ヲ利用シテ補給ヲ實施ス
 - 三 聯合國ノ船舶借用ニ就テハ別途交渉ス
- 註日本船舶ノミヲ以テ輸送スルモノトセハ歸國輸送完了ノ時期ハ
昭二〇、二 昭和二十二年中期ト豫想ス

第二 要領

- 一 本輸送ノ爲使用可能船腹（別紙第一参照）ヲ豫選スルコト左ノ如クノ直チニ使用可能ナルモノ

遠洋航海可能船

約二八萬總屯

内 國

戰時標準船

約二〇萬總屯

在 來 船

約 八萬總屯

近海航海可能船

約一四萬總屯

内 國

戰時標準船

約一〇萬總屯

在 來 船

約 四萬總屯

大 中 破 船 中 昭 和 二 十 一 年 九 月 以 降 使 用 可 能 ナ ル モ ノ (設 想)

遠洋航海可能ナルモノ

約一〇萬總屯

近海航海可能ナルモノ

約 五萬總屯

三 歸 國 輸 送 ノ 順 序 並 船 種 ノ 選 用 左 ノ 如 シ

一 在 來 船 並 戰 時 標 準 船 ノ 各 約 二 分 ノ 一 ヲ 先 ツ 滿 洲 (主 ト シ テ 北 鮮 及

大 連) 及 支 那 (主 ト シ テ 天 津 、 青 島 、 上 海 、 香 港 、 廣 東) ニ 充 當

シ 約 七 、 五 ケ 月 乃 至 九 、 五 ケ 月 ヲ 以 テ 右 輸 送 ヲ 終 了

二 前 項 輸 送 終 了 後 ハ 左 ノ 如 ク 配 船 ス

遠洋航路使用可能船

イ 南 京 、 中 部 太 平 洋 、 比 島

ロ 其 他 ノ 南 方 諸 地 域

ハ 海 峽 諸 島

近海航路使用可能船

イ 千 島

所要船腹 (屯)
$4800 \times \frac{1}{1.5} \times \frac{1}{2} = 1600$
$3000 \times \frac{1}{1.5} \times \frac{1}{2} = 700$
$19000 \times \frac{1}{1.5} \times 1.5 = 18000$
$4800 \times \frac{1}{1.5} \times \frac{1}{2} = 1600$
$3600 \times \frac{1}{1.5} \times \frac{1}{2} = 1000$
$15000 \times \frac{1}{1.5} \times 1.25 = 12500$
$16000 \times \frac{1}{1.5} \times 1.0 = 10700$
計46100總屯ナルモ部除分散ヲ考慮 シ3割増トス 約60,000總屯

40立方米)ヲ基礎トス

方面	要輸送量		輪
	原備	合計	
海外			充當可能船月
留政	1000	1700	21.0
留軍	1000	1640	全上
留民	1000	1000	南洋船月
歸國輸送概見表			
(案)			
台灣	227	727	全船腹依
千島	30	30	南洋船月
朝鮮	221	221	南洋船月
樺太	19	19	南洋船月
南西諸島	10	10	南洋船月
總計	363.1	824.1	

區分	給養兵數 (万人)	月間要給量 (噸)
千島	4.0	4800
樺太	2.5	3000
中 南 東 隆 太 加	15.7	19000
小笠原 伊豆	4.0	4800
琉球	3.0	3600
比島	12.0	15000
南支	13.0	16000
計	54.2	66200

外征部隊（現地自活不可能方面所在）月間補給所要船腹量

(註)

一人一月所食量ハ1200立方米(噸)

關甲 四三五

千九十三



昭和三年九月十日付

内閣書記官長

各省大臣
情報局總裁
内閣調査局長官

宛(各通)

外征部隊及居留民歸還輸送船腹一件